



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	高齢社会と健康と介護：幸せとは？：まとめ
Author(s)	玉城, 英彦; 池野, 多美子; 新井, 明日奈 他
Relation	「SW2010オープニング行事 北海道大学「持続可能な発展」国際シンポジウム：ひとり一人がすこやかに人間らしく生きる社会を目指して：わたしたちが直面する危機の原因を包括的に探る」分科会4：高齢社会の健康と介護：幸せとは？. 平成22年10月26日(火). 北海道大学学術交流会館, 札幌市.
Issue Date	2010-10-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44369
Type	conference presentation
File Information	matome.pdf



分科会4

高齢社会と健康と介護：幸せとは？

北海道大学大学院医学研究科

玉城 英彦

池野 多美子 (環境健康科学研究教育センター)

新井 明日奈

吉岡 英治

Sustainability Weeks 2010

2010年10月26日

分科会4. 高齢社会の健康と介護:幸せとは？

- 日本の高齢者のウェルビーイングに向けて
- 北海道における介護予防活動～予防型家庭訪問の事例～
- 現代社会と高齢者～自動車運転を考える～
- 現代社会と心の悩み～自殺問題を中心に～

わが国の高齢社会の特徴

1. 長寿（長い平均寿命）
2. 高齢者の全体数の増加
3. 高齢化のスピードの速さ
4. 平均寿命の男女間の差が大きい
5. 少子化

Population change in international comparison

Country	Rate of population 65 or over		Number of years
	7%	14%	7%→14%
Korea	2000	2019	19
Japan	1970	1994	24
Germany	1932	1972	40
U.K.	1929	1976	47
Switzerland	1931	1982	51
Italy	1927	1988	61
Spain	1942	2013	71
France	1864	1979	115

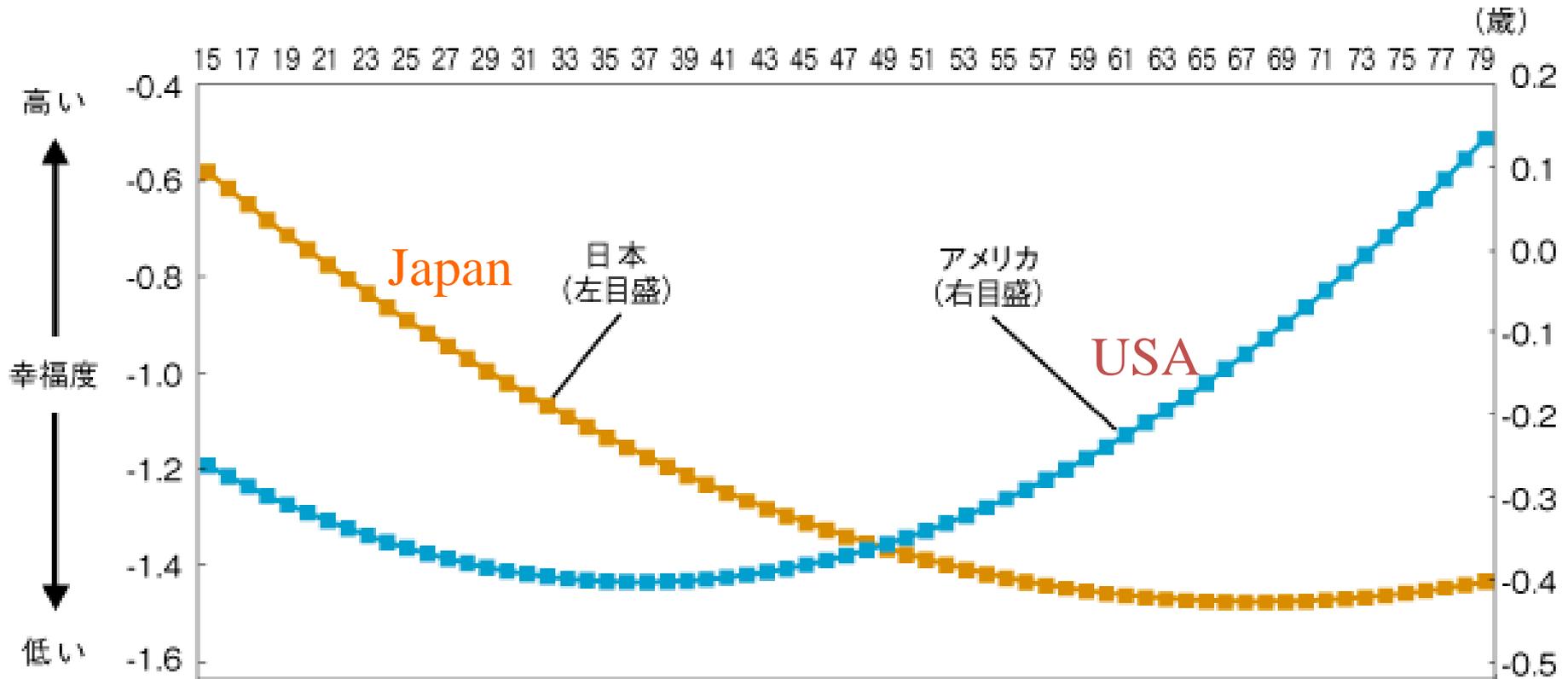
Gaps in LE between male and female in OECD countries, 2008

Country	Gaps (year)	Order
Poland	8.4	1
Hungary	8.1	2
Slovakia	7.8	3
Japan	7.2	4
France	7.1	5
Italy	5.9	12
Switzerland	4.9	17
USA	4.6	23
Iceland	3.1	30

Source: OECD

Kenya	0.8
Pakistan	0.6
Botswana	0.1
Afghanistan	-0.1

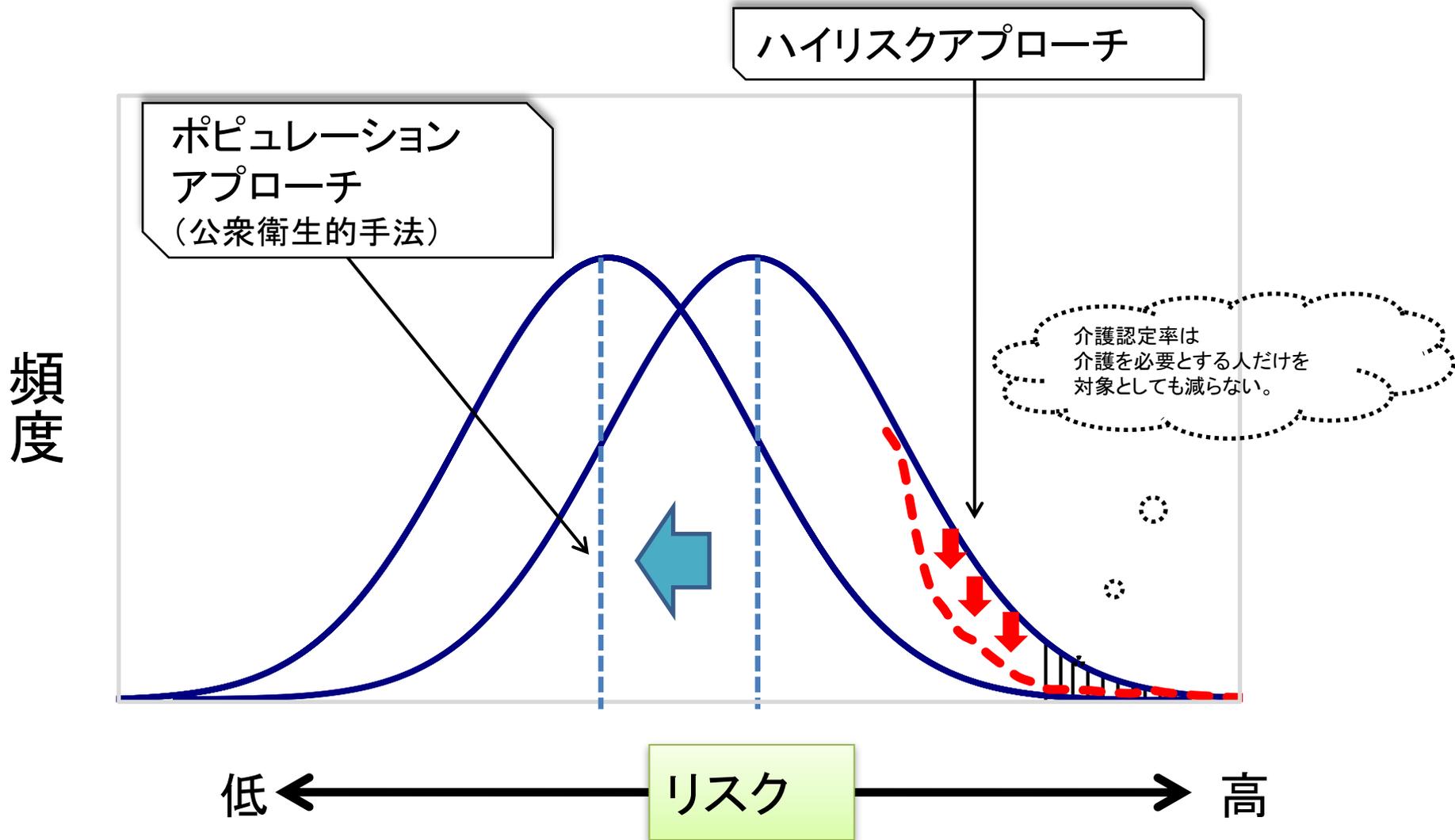
年齢別幸福度 ～日本と米国の比較～



(備考) 日本については、付注第1-3-1掲載の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。アメリカについては、David, G.Blanchflower, Andrew J.Oswald「Well-Being Over Time In Britain and the USA」掲載のTable4(1)の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。

出典：国民生活白書より、2008年

ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ ~介護予防を例に~



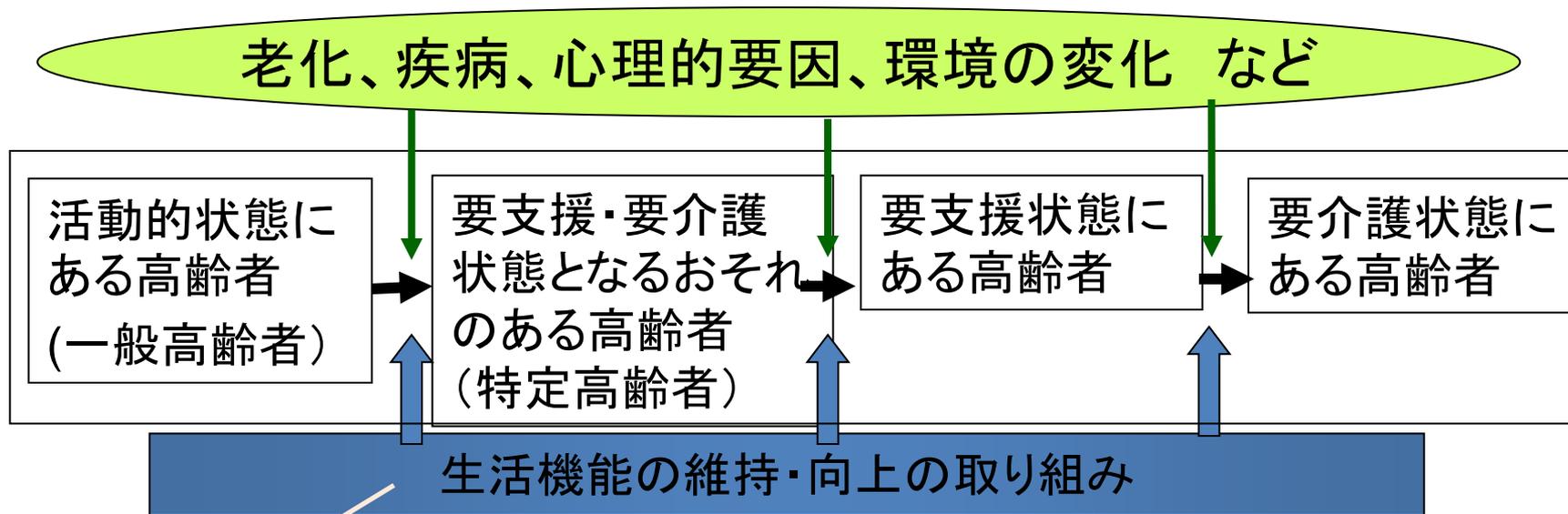
介護予防と予防型家庭訪問

1. 要介護を予防

2. 集合型vs.家庭訪問型

- ① 参加者・ボランティア等の特性
- ② 寝たきり・閉じこもり等のハイリスクグループ

● 要介護の状態は予防できる部分があります



個人の暮らしに焦点を当てたオーダーメイドの介護予防の方法の1つとして

「在宅高齢者生活機能向上ツール (FIT)」を用いた予防型家庭訪問

- ・対象: 北海道本別町、鷹栖町、新ひだか町、日高町
- ・方法: FITを用い、月1回3か月間訪問
- ・認知機能が軽度低下した高齢者、抑うつ傾向の高齢者に効果あり

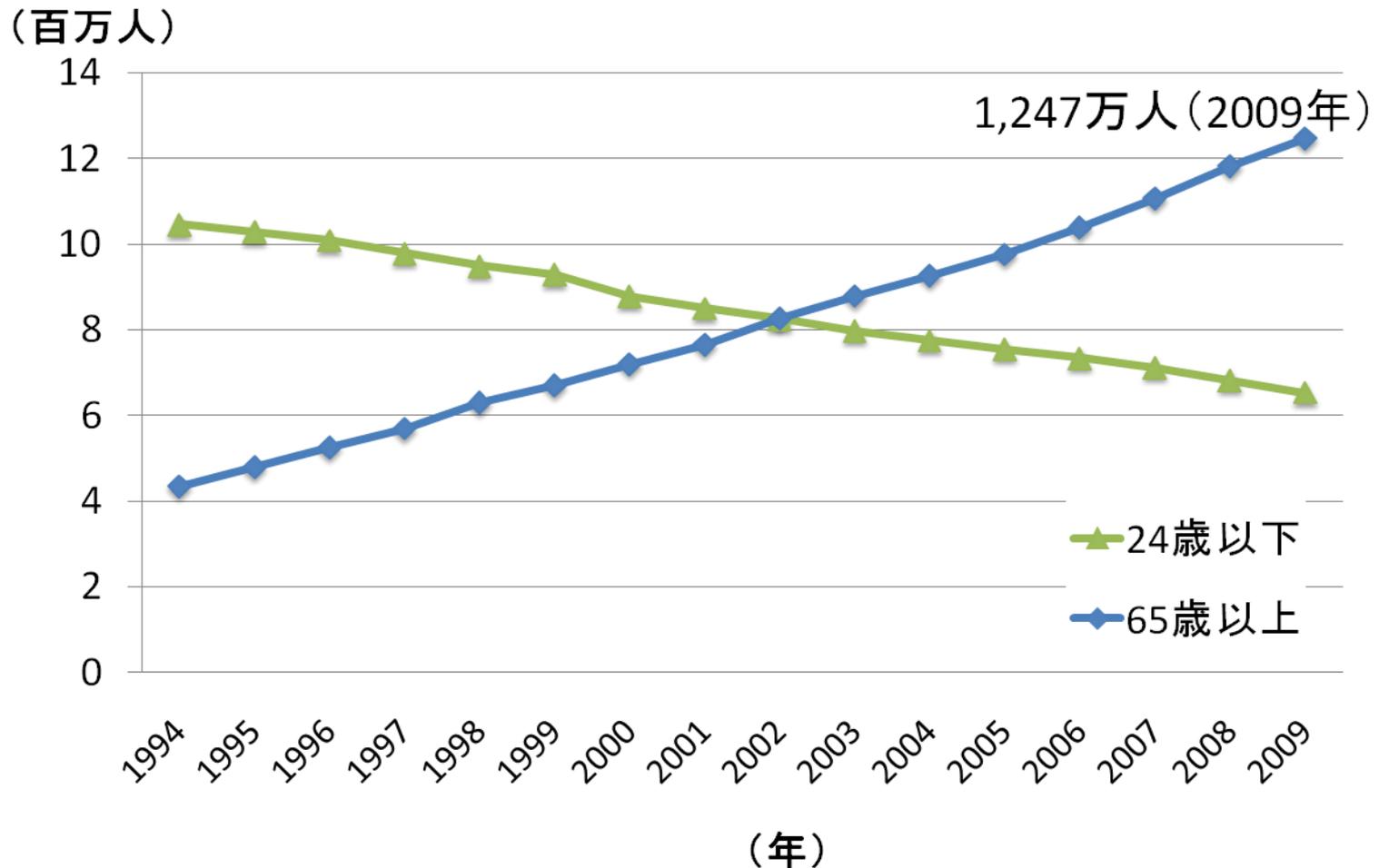
➤ 元気な方も、機能が低下してきた方も、マイペースで活動を維持するよう心がける

予防型家庭訪問の課題

1. FITおよび家庭訪問等の改善
2. 自治体の参加体制（持続可能性）
3. 評価方法の確立
4. 汎用性の検討等

65歳以上の運転免許保有者数の推移

2002年に若年層保有者数を超える

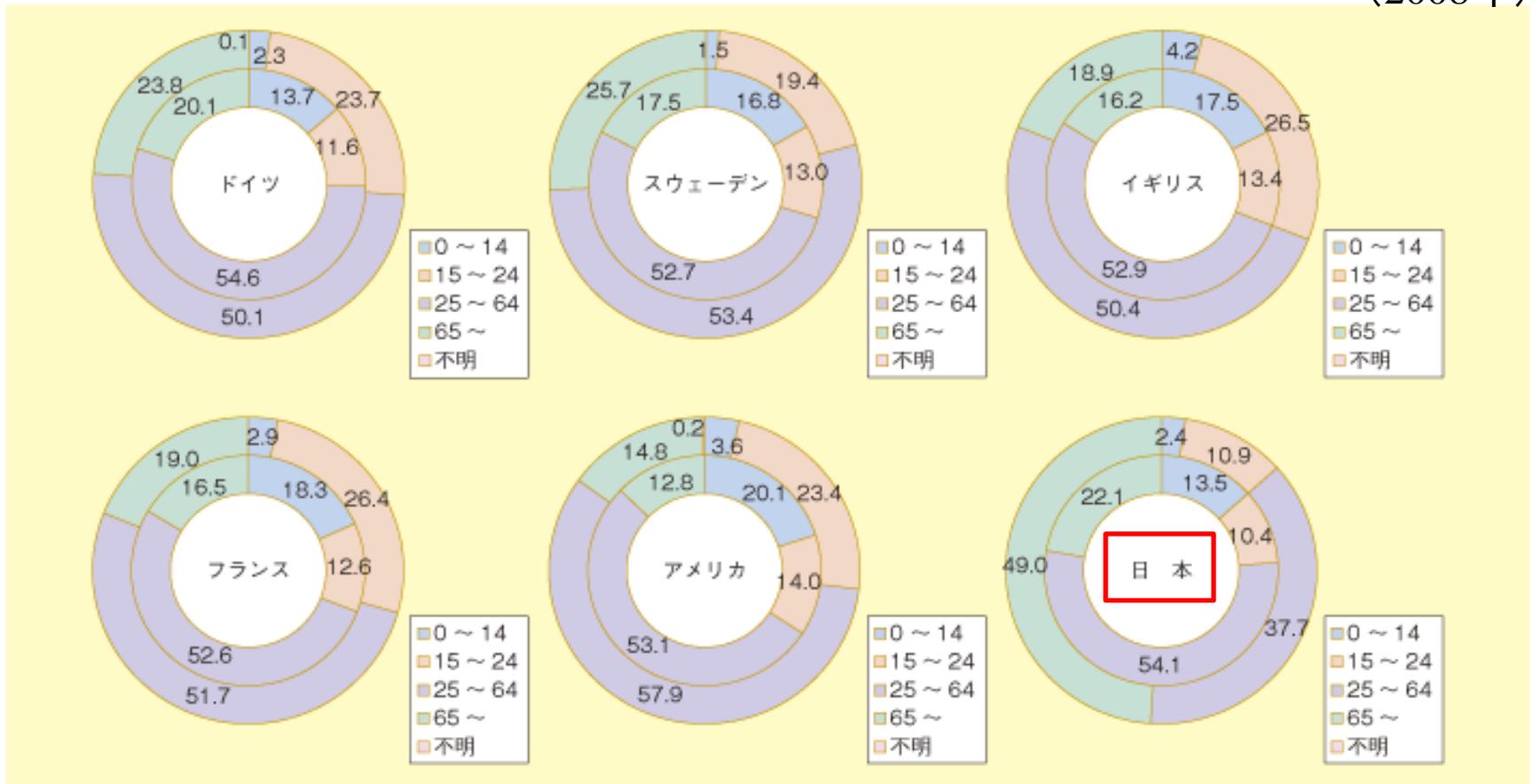


資料:運転免許統計、警察庁

人口と交通事故死者数の年齢別構成

日本は高齢層の交通事故死者数構成率が高い

(2008年)



- 注 1 IRTAD資料による。
 2 数値は構成率 (%)
 3 内円は人口、外円は交通事故死者数
 4 死者数の定義は事故発生後30日以内の死者である。

内円：人口構成率，外円：交通事故死者数構成率

出典：平成22年交通安全白書、内閣府

現代社会と高齢者～自動車運転を考える～

- 高齢者における自動車運転

移動手段であると同時に、自立した生活を維持する手段

→高齢者の身体的・精神的・社会的活動を支持

- 加齢や疾患の影響による変化に対応し、高齢者の自立した生活を支えるために

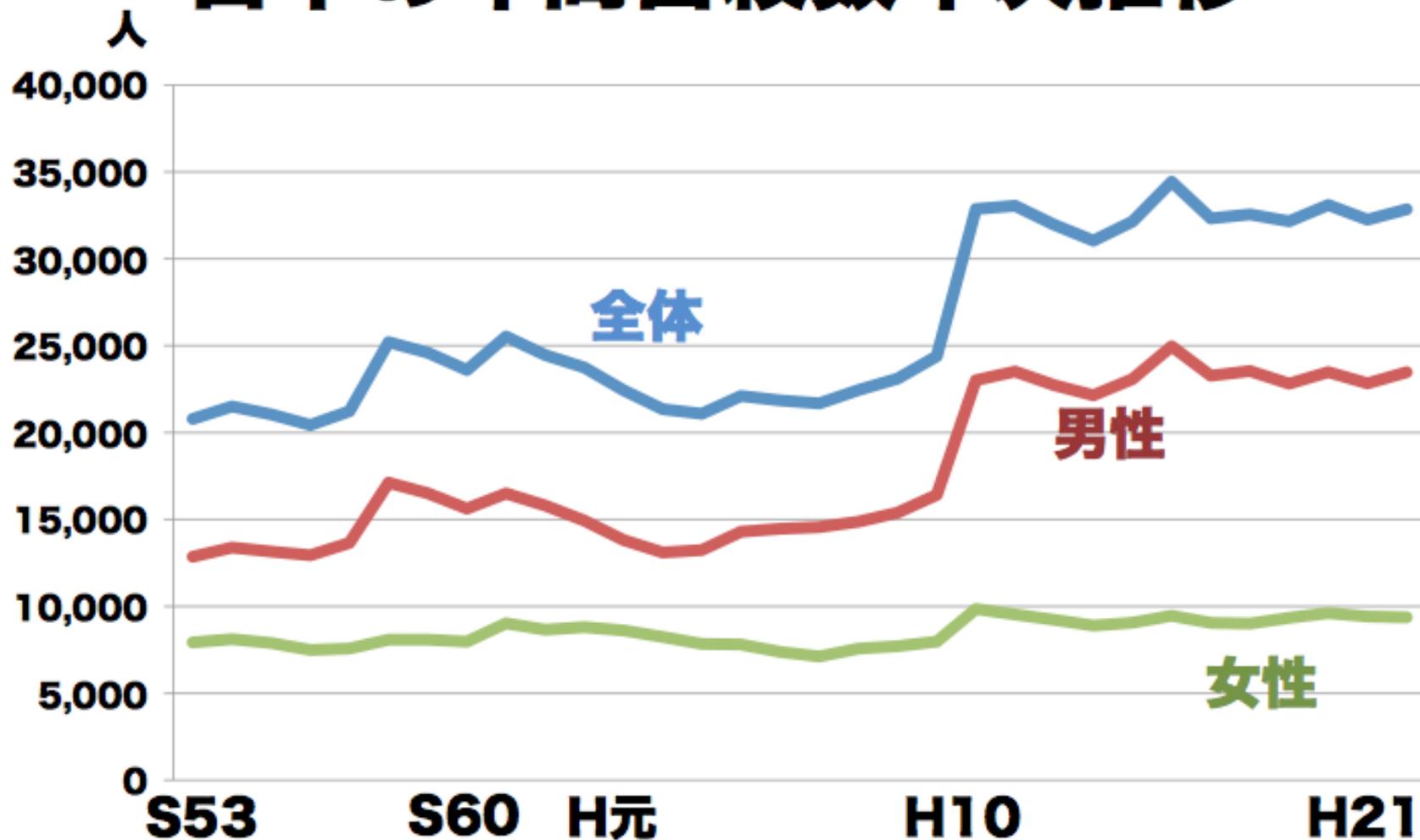
- 地域社会(行政)の取り組み
- 住民の取り組み
- 研究教育機関・企業の取り組み

「持続可能な
社会・生活」の実現
を共通課題とした
協力・共同体制



「自動車運転」の代替を備えた
フレキシブルな地域社会と生活スタイル

日本の年間自殺数年次推移



警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

主要国(G8)の自殺死亡率の比較

10万人あたり

60

50

40

30

20

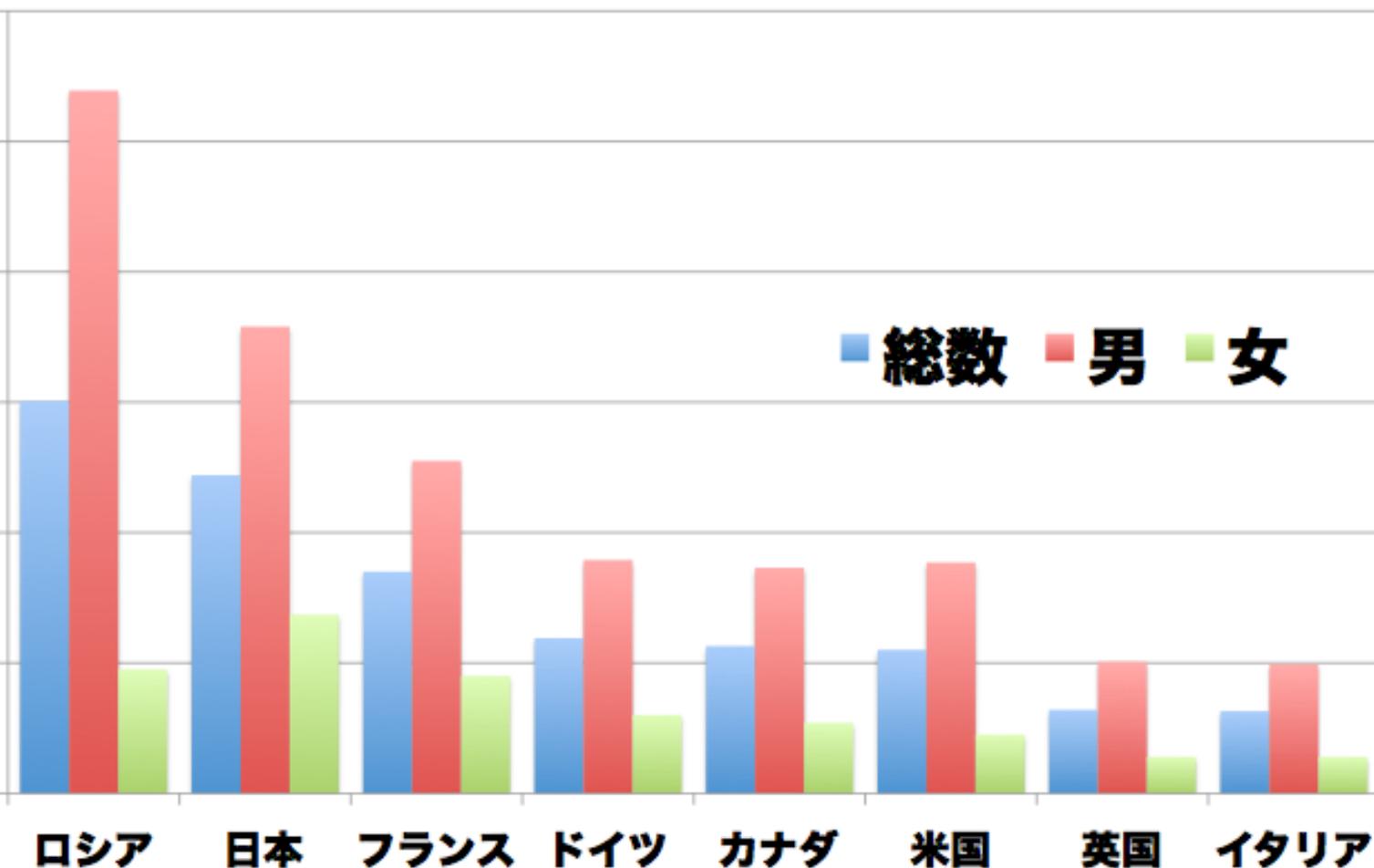
10

0

■ 総数 ■ 男 ■ 女

ロシア 日本 フランス ドイツ カナダ 米国 英国 イタリア

世界保健機関資料より内閣府作成



自殺の現状と対策

- 1998年に自殺者数急増：特に中高年男性、失業者、経済社会問題あるもの
- 1998年日本は、経済状況が悪化
- H19自殺大綱：「自殺は追い込まれた末の死」「自殺対策は社会的要因も踏まえ総合的に取り組む必要がある」

国際比較と日本の課題

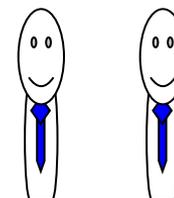
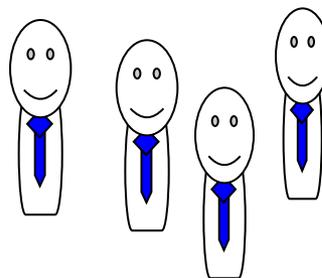
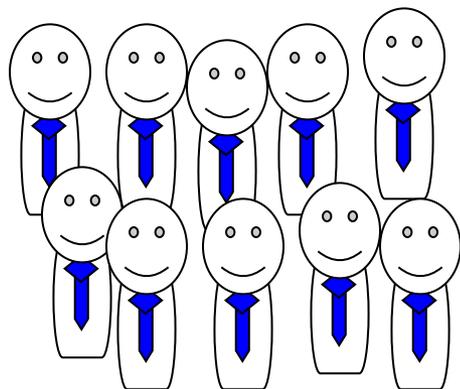
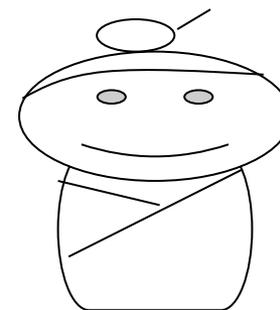
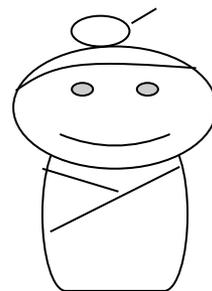
- 日本は世界的にも高自殺率（G8やOECD中で上位を占める）
- 他のOECD諸国との比較研究で、自殺率と経済指標の関連が強い
- 自殺者数を減らすためには？
 - 持続可能な社会（幸せな社会）
 - 当事者だけでなく、市民全員の課題
 - 英国はなぜ低いのか？

高齢社会

持続可能な人間開発の枠組みの中で

- 複雑性
- 長期的な展望

高齢化の変遷, 1960-2020

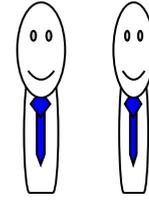
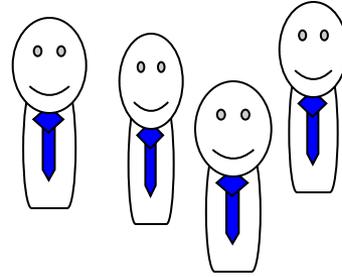
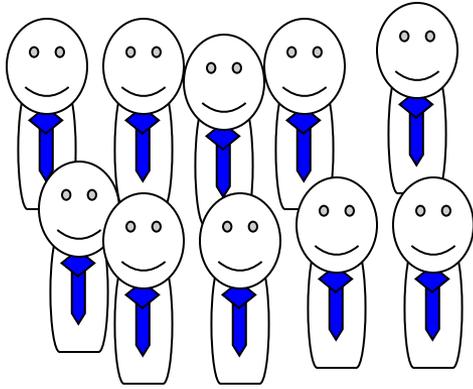


1960

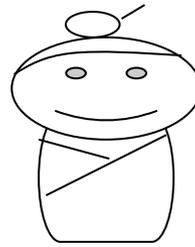
2000

2020

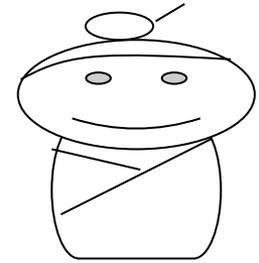
豊齢社会に向けて！



1960年



2000年



2020年

政治力も含む

高齢化の変遷, 1960-2020